

会 議 録

会 議 の 名 称	第 32 回藤井寺市子ども・子育て会議
開 催 日 時	令和 5 年 11 月 16 日 (木) 13 時 30 分～15 時 40 分
開 催 場 所	藤井寺市役所 3 階 会議室 305
出 席 者	委員：興石 由美子（会長）、小磯 久美子（副会長）、井関 裕子、 岡本 祐典、龍見 美行、爲貞 修子、中辻 智子、春名 絵美、 山本 多津子 (敬称略)
欠 席 者	下村 富美枝 (敬称略)
会 議 の 議 題	(1) 第二期藤井寺市子ども・子育て支援事業計画の令和 4 年度における 点検・評価について (2) 第三期藤井寺市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査について (3) その他
会 議 資 料	○次第 ○（資料 1）教育・保育の量の見込み及び確保方策評価シート【令和 4 年度】 ○（資料 2）地域子ども・子育て支援事業の量の見込み及び確保方策評価 シート【令和 4 年度】 ○（資料 3）第三期子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査票（案）の 意見に対する回答 ○（資料 4）調査票【就学前児童（0 歳～小学校入学前まで）用】 ○（資料 5）調査票【就学児童（小学生）用】
会 議 の 成 立	成立
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記 録 内 容 の 確 認 方 法	会長の確認を得ている
公 開 ・ 非 公 開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍 聴 者 数	0 人
そ の 他 の 必 要 事 項	

審 議 内 容 （ 発 言 者、 発 言 内 容、 審 議 経 過、 結 論 等 ）

1. 開会

(会長) 挨拶

(事務局)

- ・副会長（前回会議欠席）の紹介 → （副会長）挨拶
- ・委員 10 名中 9 名の出席により会議成立の旨報告

2. 配付資料

(事務局)

- ・配付資料の確認

3. 議題

(1)第二期藤井寺市子ども・子育て支援事業計画の令和4年度における点検・評価について

(事務局)

- ・点検・評価で用いる用語について説明

(保育幼稚園課)

- ・資料1に沿って説明

(会 長)

委員の皆様からご意見、ご質問はないか。

(委 員)

「利用実績」が「確保方策の実施結果」を下回っているにも関わらず、待機児童が出ているというのは、どのような状況であるのか。

(保育幼稚園課)

受け入れ可能な保育所をご案内するものの、保護者の希望される保育所とは異なるため、入所に至らなかったものである。

受け皿の数字としては足りているが、実際には、入所可能な保育所が遠くて通わすことができないという需要と供給のミスマッチがあり、これが待機児童となっている状況である。

(会 長)

次に、資料2についての説明をお願いします。

(事務局)

- ・昨年度の会議での意見を踏まえ、各事業の利用状況等も見ていただけるよう、今回報告分より個票の様式を変更した旨を説明

(各事業担当課)

- ・資料2に沿って順に説明

(会 長)

順を追って委員の皆様からご意見、ご質問をお伺いする。まず、(1)時間外保育事業（延長保育事業）について、ご意見、ご質問はないか。

(委員)

令和4年度の実績値は令和2・3年度と同程度であるが、予算額・決算額が大きく異なるのは何か理由があるのか。

(保育幼稚園課)

便宜上、子ども・子育て支援交付金の交付申請額を予算額、実績報告額を決算額としている。当該交付金の交付要綱上、利用人数に応じてではなく、延長保育の時間をどのように設定していたかによって支給額が決まる。令和4年度において、1園が延長保育の設定時間を変更されたため、資料上の決算額である交付金の実績報告額が少なくなったものである。

(会長)

保育者の確保が困難になっていることや保育者の高齢化も問題である。保育者の養成校としても考えていかなければならないが、市側としても困っていることはないか。

(保育幼稚園課)

早朝2時間、夕方2時間という従来の形態での雇用は今後難しいと感じており、人材確保が一番悩ましい。

(副会長)

他市の保育所・幼稚園の巡回指導に行くが、どの自治体も保育者の確保を課題とされている。学生自身はといえば、現場での研修等で温かく対応してくださった自治体で働きたいと考える者も多い。地域ぐるみ、行政ぐるみで保育者を育てていくことは非常に大切だと考えている。

もう一点、保育現場においては、現場復帰して間もない、あるいは、学校を卒業して間もない保育者のスキルを如何に高めていき、保育の質を確保していくか、ということが課題であると思っている。

この会議の場で、事業を進めていくうえでの課題を出しておられることが、意識が高くて良いと感じている。

(委員)

随分前の話になるが、どこかの市町村でブランクのある保育士向けに復帰のための講習や働き先のマッチング等を実施しているNPO法人があったかと思うが、今は無いのか。

(保育幼稚園課)

例えば、民間の保育施設ではそのようなブランクのある方を雇用するための講習等があるかも分からないが、現時点では特に把握していない。ただ、何か考えていかないといけないとは感じている。

(副会長)

国でも、復職支援の取組が行われており、どの自治体も潜在保育士を掘り起こしたいと考えておられるのではないか。

(委員)

大学関係の方に話を伺ったところ、インターンシップ制度等で現場を経験された学生にそのままアルバイトとして働いてもらっているというケースもあるとのことであった。予算の問題もあるが、短時間であれば学生にお願いするということも検討してはどうか。公立園だと難しいのか。

(保育幼稚園課)

養成校と連携できないかなどについては、現在検討を進めているところである。

(委員)

保育とは少し違うかもわからないが、ボランティア活動が直接単位取得に繋がる取組をされている大学との連携も視野に入れると、もう少し選択肢が広がってくるのではないかと感じている。

(会長)

公立園の保育士は公務員であるため、学生時代に経験した現場にそのまま就職することは難しいが、様々な経験をさせていただく中で、本当に保育者になりたいと感じた人たちが職員になることができれば、一番有り難いと思う。

続いて、(2)①在園児対象の一時預かり事業について、ご意見、ご質問はないか。

(委員)

予算額が決算額を超えているのは、受益者負担分を加えられているものと推察する。収支内訳が無いのでわからないが、どのような状況であったのか。

(保育幼稚園課)

本事業についても、子ども・子育て支援交付金の対象になっており、便宜上、一時預かり事業に係る交付申請額を予算額、実績報告額を決算額としている。令和4年度は、実績報告額が交付申請額を上回ったため、予算額が決算額を超えているように見えてしまっている。

(委員)

受け皿の状況ではなく、過年度の利用実績を基に申請額を算出されているという理解で良いか。

(保育幼稚園課)

お見込みのとおり。前年度の実績から見込んで交付申請額を算出しており、確保方策の状況を考慮している訳ではない。

(委員)

利用実績が量の見込みを下回っているにもかかわらず、決算額が予算額を上回っているという状況は、非常にややこしい。利用者一人に要した経費が多かったということか。

(保育幼稚園課)

職員1人で子ども1人を保育する日もあれば、同じく職員1人で10人の子どもを保育する日もある。人件費が同じでも、日によって利用者数が変わることは当然にあり、こういったことが、数字をややこしくさせてしまっていると感じている。

(委員)

柔軟に対応できる職員体制の構築が課題であると資料に記載されているが、もう少し詳しく状況をお聞かせいただきたい。

(保育幼稚園課)

公立園では、平日は、基本的には、預かり保育担当の職員を1人配置しているが、対象児が毎日異なるので、十分に配慮できるよう、もう1人配置させたい、あるいは、特に長期休業中であれば、準備も含めて朝から夕方まで同じ職員が担当するわけではなく、シフトを組

んで対応するので、職員体制を良くしたいという現場からの要望を踏まえ、課題として記載したものである。

(会 長)

次の(2)②の各事業について、ご意見、ご質問はないか。

(委 員)

子育て短期支援事業（トワイライトステイ）の利用実績がずっと0人日で、利用に関する相談がなく利用に至らなかった、となっているが、困っている方は潜在的にはいらっしやると思う。本当に困っているときに選択肢の一つとして捉えてもらうことが大切だと思うので、そのような方にも届くよう、広報周知については引き続き取り組んでいただきたいと思いますと感じている。

(会 長)

次に、(3)病児・病後児保育事業について、ご意見、ご質問はないか。

(委 員)

自身も利用しており、病児・病後児保育事業の登録の更新がスムーズになって良かったが、もっと多くの保護者に利用されれば良いと感じている。

利用希望があっても、先に登録を完了させておく必要があるため、より多くの方に登録してもらえるよう、例えば、保育所入所の申請書配付時に、本事業の申込書を併せて配付すればよいのではないかと。

保育所に子どもを預けている保護者の7～8割が登録している状況を作ることができれば理想であると思うので、導入部分でさらに工夫があれば良いのではないかと感じている。

(会 長)

利用されている方ならではのご意見をいただき感謝申し上げます。

では、続いて、(4)子育て短期支援事業（ショートステイ）については如何か。

(委 員)

過年度も含め、ほとんど利用実績がないのは、事業のイメージがつきにくいからではないかと感じている。

子育て短期支援事業に限らないが、例えば、預け先の施設の情報やどんな方がどのような理由で利用されているのか等が掲載された事例集のような冊子があれば、よりイメージしやすくなり、利用に繋がるのではないかと。

(委 員)

直接やり取りを見たわけではないが、市に相談したにも関わらず利用できなかった、といった声も聞いたりする。

(副会長)

利用料が高い、感染症の影響といった利用に繋がらない理由を説明いただいたが、課題を出していただくことが大事であり、なぜ利用に繋がらないのかなど、課題を深掘りしていくことが大切だと改めて感じた。

(委 員)

色々と工夫していただいているとは思いますが、さらに深掘りしていただけると、市民の安心にも繋がると思うので、よろしくお願ひしたい。

(子育て支援課)

今いただいた意見を大切に、今後、事業をどのようにしていくのか検討していきたい。

(会 長)

次の(5)地域子育て支援拠点事業については如何か。

→意見等なし

(会 長)

続いて、(6)ファミリー・サポート・センター事業については如何か。

(委 員)

コロナの影響か、令和3年度から利用実績が激減しているが、どうすればコロナ前に戻せるだろうか。援助会員が活動を控えられているのか。

(子育て支援課)

今年度は既に援助活動の実績があり、少しずつではあるが、状況が戻りつつあるのではないかと感じている。

(委 員)

確認であるが、マッチングまで事前に済ませたうえで、利用の必要が生じた際に援助会員に依頼するという流れか。

(子育て支援課)

お見込みのとおりである。

(委 員)

例えば、小学校の参観日の前後に、市からの説明を聞くことができれば良いと感じた。

マッチングまで済ませておけば安心、ということを知らない保護者が多いと思うので、この辺りのスキームが事前に分かっていたら、利用に繋がりやすいのではないかと思う。

(委 員)

マッチングが済み、援助会員が予定を空けている状況でキャンセルとなれば、トラブルにはならないのか。

(子育て支援課)

基本的には、1ヶ月前までには利用予定を決めていただいている。また、タイミングによってはキャンセル料が発生するので、トラブルになるということはない。

(会 長)

(7)養育支援訪問事業、子どもを守る地域ネットワーク強化事業については如何か。

→意見等なし

(8)妊婦健康診査については如何か。

→意見等なし

(9)乳児家庭全戸訪問事業について、ご意見等はないか。

→意見等なし

(10)放課後児童健全育成事業については如何か。

(委 員)

指導員の確保の難しさや、支援学級数の地域差など、もう少し詳しく状況をお聞かせいただきたい。

(生涯学習課)

地域差、学校差というのはある。学校全体の児童数も地域差はあるが、放課後児童会については、藤井寺南小学校が一番大きく、40人4支援の単位の定員160人、一番小さいところが道明寺東小学校と道明寺南小学校で40人2支援の単位の定員80人、標準が3支援の単位である。

令和4年度は待機児童が出ていないが、定員枠一杯で運営している児童会と、余裕のある児童会がある。

夏休みを目指して入会され、4月から徐々に慣れていき、落ち着いた9月頃に退会される方もいる。

(委員)

長期休業中だけでも学童を利用したいという保護者のニーズもあると思う。人員の問題もあると思うが、もっと改善されれば、保護者も安心できると思う。

(会長)

では、(11)利用者支援事業については如何か。

(委員)

本事業は、妊娠中や出産後の方への相談等であると思うが、父子家庭の方へのサポート体制はあるのか。

(健康課)

例えば、出産後、母親が長期入院される等により、当面の間父親だけで子育てされるような場合であれば、病院等から随時連絡が来るので、父親や家族の方と相談しながら、必要に応じて他のサービスにも繋いでいる。お困りごとがあれば随時相談いただき、一緒に計画を立てるなどして進めている。

(会長)

(12)実費徴収に係る補足給付を行う事業については如何か。

→意見等なし

各部署から丁寧に説明いただいた。また、委員の皆さんも、素朴な疑問から、自分が利用されているからこそその意見など、ご意見・ご質問等をたくさんいただいた。

各部署におかれては、本日の意見を何かの形で生かしていただきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

(2)第三期藤井寺市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査について

(事務局)

・資料3～資料5により説明

(会長)

只今説明いただいたが、如何か。皆さんのご意見について、反映が難しい部分もあったかと思うが、すべての意見を加味し、このような形で調査するという事で良いか。

(委員)

就学前児童用の問19について、選択肢「その他」の例示を削除されたが、「その他」の内容について具体的に尋ねなくても良いのか。

(事務局)

敢えて記入してもらうような形にはしていない。

(会 長)

「その他」にどのようなものが出てくるかをお知りになりたいのかもしれないが、今回は他の設問でも細かく尋ねているのでこのままでどうか。ただ、今回「その他」の回答が多ければ、次回は尋ね方を変えていただくことが必要になるかも知れない。

回収率向上に向け、今回新たに取組んだことがどのような効果をもたらすかに期待しつつ、委員の皆さんには、周りの方々をサポートしていただければ有り難いと思っている。よろしくお願ひしたい。

(3)その他

・特になし

(会 長)

皆さんの貴重なお時間を頂戴し、活発なご意見いただいた。今度は行政に色々と考えていただき、より良い市民生活が送れるようになればよいと思う。本当に感謝申し上げます。

それでは、進行を事務局にお返しする。

4. 閉会

(事務局)

皆さんから貴重なご意見いただき、市としては本当に有り難いと思っている。

今回のように、いただいたご意見を踏まえて様式を変更するだけで、今日これだけのご意見がいただけたことは、非常に有意義であったと実感している。

これまで通りではなく、いただいたご意見を反映してよりよくしていくことを繰り返しやっていきたいと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

以上で第 32 回の会議を終了させていただく。

以上